

2025年は「ヘビ年」

新しい年になりました ✨ ヘビは、危険なイメージもありながら皮を脱ぎ捨て新たに生まれ変わる姿などから、古くから信仰の対象とされてきました。

ヘビ年ということで、種名に“ヘビ”のつく身近な野生動物「ニホンカナヘビ」を紹介します！



ニホンカナヘビ（カナヘビ科）

北海道から九州と周辺の島々に分布する爬虫類。
東京都の区部では絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）、西多摩では準絶滅危惧種（NT）に指定されている。

10月某日の夕方。
カナヘビがシダの葉っぱ
マフラーを巻いている（?!）
驚きの場面に出会いました。
自切したあとの尻尾も・・・



ニホンカナヘビ（以下、カナヘビ）は、日本固有種でヘビではなくトカゲの仲間です。よく見ると、多様な形をした鱗に覆われています。まるで小さな恐竜のようです。ヘビのように細長くて、尾が非常に長く可愛いことから愛蛇、金物のような色をしていることから金蛇と^{かなへび}なったなど種名の由来は諸説あるようです。

草地に近い場所に生息し、主にクモや昆虫などを捕食します。ご存じの方もいると思いますが、捕食者に襲われるなどの危険に直面すると自ら尻尾を切断することがあります。自切した尻尾はしばらく動き続け、その尻尾に敵が注意を引き付けられている間に逃げるのです。正に、捨て身の生き残り作戦です。

都内全域で見られますが、森林伐採、草地の消失などで生息地が減少していることから、都心では急激に少なくなっている可能性が高い種とされています。

冬眠から目覚める春、日当たりの良い場所で日光浴をしている姿が見られたら、そっと観察してみてください。

冬の自然発見

ウグイスカグラ
「鶯神楽」

昨年の1月下旬、日当たりの良い山野で桃色の花を見つけました。ウグイスカグラです。

躍動感溢れる枝ぶりとは対照的な可憐な花。まるで、新年を祝うように天に向かって咲いているようにみえました。図鑑などでは、開花時期は4月頃とされており、本来は葉の展開とともに下向きの花を咲かせます。鶯の踊りはねるような動きを神楽踊りに見立てた、鶯の初鳴きを聞く頃に咲く、狩り座（鶯などの小鳥を捕らえる場所）がカグラに変化したなど種名の由来には諸説あります。

花言葉は「明日への希望」「未来を見つめる」です。新年や門出にふさわしい花言葉を持つウグイスカグラ…今年も、初確認できる日が楽しみです。



ウグイスカグラ（スイカズラ科）

北海道から九州の、日当たりの良い低地の山野に自生する落葉低木。よく分枝して茂り、高さ2m程になる。

コレンジャーと ビオトープ

数十年以上前^{やっだ}に谷津田として利用されていた場所で、水場を中心とした多様な生き物が生息できる環境「ビオトープ」を復活させるため、市の自然を愛する次世代「森の子コレンジャー」と共に整備を行っています。12年目を迎えた今年は、秋に同窓生と、そして冬には現役生と行いました！

錦秋の同窓会



同窓会は、整備に関わったコレンジャー卒業生が年に一度集う日です。

今年は、小学5年生から大学3年生までの11名が出席してくれました。

「あれ？こんなにビオトープは狭かったっけ…」「自分が成長したからだよ～」という仲間たちの微笑ましい会話(´艸`) ✨

心身共に成長して更に頼もしくなったみんなのおかげで、予定していた整備は無事完了！今回参加してくれた仲間も、参加できなかった仲間も関わったビオトープを現役生に引き継ぎます。

↓↓↓

冬の第14期現役生



現役生の整備は、池と陸の2チームに分かれて、それぞれ協力して作業を進め、予定していた整備は無事完了！

泥だらけになっても「楽しかった」という充実したみんなの姿がありました。

整備を続けてきたビオトープには、当初見られなかった多様な動植物を確認することができています。

春、現役生とビオトープの状況を確認しに行きます。どのような動植物に出会えるか、楽しみです！



整備後の池の様子

コレンジャー卒業生と現役生のみんな
自然や仲間のために協力してくれて、ありがとう！

ビオトープの春は、もうすぐそこです♪